

第6回

'95選抜女子駅伝 北九州大会

□ 期 日 / 1995年1月22日 (日)
□ コース / 小倉北区・北九州市役所前—
八幡西区・北九州プリンスホテル
折り返し 32.8km

一般・大学の部 5 区間 高校の部 6 区間

順位

一般・大学の部

1	天満屋 (岡山)	1° 49'15"
2	鐘紡 (山口)	1° 50'16"
3	岩田屋 (福岡)	1° 50'40"
4	九電工 (福岡)	1° 51'47"
5	TOTO (福岡)	1° 54'46"
6	日本電装 (三重)	1° 55'43"
7	九州女子大学 (福岡)	1° 59'13"
8	トキハ (大分)	2° 00'46"
※	四国電力 (香川)	オープン

区間賞

第1区 (4.5km)	佐藤真奈美 (天満屋)	13'51"
第2区 (5.9km)	山田 貴子 (岩田屋)	19'18"
第3区 (5.1km)	原田 賀世 (天満屋)	17'17"
第4区 (5.9km)	山田久美子 (鐘紡)	20'36"
第5区 (11.4km)	小松ゆかり (天満屋)	37'11"

高校の部

1	西京 (山口)	1° 49'51"
2	筑紫女学園 (福岡)	1° 50'06"
3	九州国際大付 (福岡)	1° 51'20"
4	柳川 (福岡)	1° 52'00"
5	熊本市立商業 (熊本)	1° 52'06"
6	鹿島実業 (佐賀)	1° 53'09"
7	神村学園 (鹿児島)	1° 53'50"
8	鳴門 (徳島)	1° 53'53"
9	山田 (高知)	1° 56'41"
10	北九州市選抜 (福岡)	1° 57'23"
11	杵岐商業 (長崎)	1° 58'29"
12	開星 (島根)	1° 58'31"
13	大分女子 (大分)	1° 59'00"
14	就実 (岡山)	2° 00'07"
15	豊見城南 (沖縄)	2° 00'29"
16	由良育英 (鳥取)	2° 02'01"

区間賞

第1区 (4.5km)	尾崎佐知恵 (九国大付)	13'34"
第2区 (5.9km)	田中 尚子 (鹿島実)	19'22"
第3区 (5.1km)	大野 彰子 (鹿島実)	17'13"
第4区 (5.9km)	古本 幸子 (西京)	19'58"
第5区 (4.9km)	中島 愛子 (筑紫女学園)	16'17"
第6区 (6.5km)	上妻 知美 (熊本市立商)	20'44"



5区3.5キロ付近で高校トップの西京・岡村宏子を抜き総合でもトップに立つ天満屋・小松ゆかり

一般・大学の部

アンカーで逆転 天満屋が2連覇 初出場の岩田屋が3位

阪神・淡路大震災の影響でリクルートや富士銀行、沖電気宮崎、ニコニコドーなどがエントリー後に出場を辞退、オープン参加の四国電力を含め9チームの出場にとどまった。

優勝は2年連続で天満屋。4区のブレーキで鐘紡に一度は首位を奪われたが、アンカーの小松ゆかりが逆転、鐘紡に約1分の差をつけて連覇を果たした。

1区は天満屋の佐藤真奈美がストライドを伸ばし、集団を引っ張った。鐘紡の芥川陽子も追随。2区のタスキ渡しで、2位の鐘紡とは3秒差。天満屋は2区で山口衛里が2位鐘紡に23秒差をつけ、3区では原田賀世が区間賞。さらに差を広げた。岩田屋は2区で山田貴子が区間賞。高校生を含む7人をゴボウ抜きし、5位から3位に浮上した。

4区に入って天満屋が失速。5区へのタスキ渡し直前に鐘紡に抜かれ、初めて2位に転落。52秒差の貯金を一気に使い果たした。

しかし、天満屋はアンカー・小松ゆかりが快走。鐘紡、高校3チームをとらえ、グングンと加速。そのまま連覇のテープを切った。最終区に藤丸麻美を配した岩田屋が九電工をかわし、初出場で3位に入った。

佐々木精一郎・天満屋監督 「メンバー編成がままならず、4区に故障あがりジョギングしかできない手島佳美を起用するしかなかった」

小松ゆかり・天満屋5区 「高校生は強かった。でも、負けられなかった」

山田貴子・岩田屋2区 「試合が続いて少し疲労はあったけど、タイム的には満足。弾みがつきそうです」

高校の部

終盤に底力 西京が初の頂点 筑紫女学園の猛追かわす

5区でトップに立った前年末の全国高校駅伝4位の西京が、筑紫女学園の猛追をかわし、15秒差で初めて頂点に立った。

1区は中盤まで九国大付、西京、杵岐商など6チームが先頭集団を形成。残り2km付近で九国大付の尾崎佐知恵が抜け出し、一般の首位・天満屋も抑えて区間賞。ともに26秒差で柳川、西京と続いた。

2区は5区でタスキを受けた鹿島実がエース田中尚子の力走で首位を奪い、2位は27秒差で西京、さらに2秒遅れて柳川。3区で首位の鹿島実と2位の西京の差は43秒に開いたが、4区で西京の古本幸子が坂道をうまく走り、鹿島実との差を17秒に縮めた。

5区の西京・岡村宏子は1km付近で鹿島実・中村千春をかわして首位に。1区12位と出遅れた筑紫女学園が中島愛子の好走で3人抜いて2位に躍進。逆に鹿島実とは5位に転落。6区は西京のアンカー吉田亜子がリードを守り、ゴールテープを切った。筑紫女学園、九国大付、柳川の福岡勢が続いた。

古本幸子・西京4区 「とにかく前との差をつめて、(全国レベルの駅伝で初めて走る)ヒロ(岡村幸子)を楽に走らせなくちゃ、と思っていた」

岡村幸子・西京5区 「ブレーキを起さなければいいと思っていたら、私のところでトップに立てて……。みんなの役に立てました」



初優勝のゴールテープを切る西京のアンカー・吉田亜子